

## ○本校のミッション（使命、存在意識）

「ふるさと井原の未来を創る子どもたち」に、そして、生き生きと輝いて21世紀の社会に貢献できるよう、自分で考え自分で行動できる子どもたちを育てることが私たちの使命である。

今、急激に変化する社会情勢や国際化時代に柔軟に対応できる確かな主体性とグローバル感覚を備えた次代を担う人材の育成が求められている。小学校時代に学んだ知識・技能・経験と豊かな人間関係から生み出された価値観やコミュニケーション能力、実践的態度がそうした力の礎となる。

5年あるいは10年先の近未来の状況を見通しながら、不易流行の教育内容を創り上げ、児童が身に付けるべき「生きる力」（知・徳・体のバランスのとれた力）を育てていきたい。

## ○内外の環境分析

本校学区は井原市南部の田園地帯が広がった、稲木川や匠ヶ城址等の自然環境に恵まれた地域である。

令和6年度より完全複式学級となった。令和7年度4月1日現在、全校児童数は31名である。10年前と比較し、児童数は約1/3となり減少傾向が進んでいる。児童は全体的に明るく、素直で、学校行事や集会活動等には積極的に参加することができる。基礎学力の定着に向上が見られてきたが、活用の能力には課題がある。研究教科の国語科では、聞く力や書く力は平均以上であるが、話す力は弱い。

保護者は、全体的に学校の教育活動やPTA活動に協力的である。近年、共働き家庭が増え、そのため、放課後児童クラブに入室する児童が非常に多い。

地域住民は、学校教育に理解があり、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が高い。

## ○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

- 1 学校教育目標 「ふるさと稲倉を愛し、自ら学びたくましく生きる子供の育成」
- 2 めざす子供像 ○ 考える子（知） ○ やさしい子（徳） ○ たくましい子（体）
- 3 めざす学校像 笑顔と一生懸命があふれる学校 ～行きたい・支えたい・応援したい学校に～
  - ・ 出番をつくり、認めて伸ばす学校
  - ・ 「わかる・向上する」喜びが実感できる学校
  - ・ 安心安全で、美しい環境の整った学校
  - ・ 地域住民・保護者と共に歩み、信頼される学校

## ○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

- 1 興味・関心をもって、主体的に学習する児童を育成する
  - ・ 学習規律や学習習慣の定着（学習のきまり、ノート指導の工夫など）
  - ・ 指導方法の工夫（岡山型授業5の徹底）や基礎学力の定着（朝タイムやデジタルドリルの活用）
  - ・ 主体的・対話的な学びを目指した、伝え合い・学び合う集団の育成
  - ・ GIGA スクール構想に基づき、ICTを効果的に活用した授業づくりの推進
  - ・ 家庭と連携した家庭学習の習慣化と「自ら学ぶ力」の育成
- 2 ふるさと愛を育む環境づくりと、地域から信頼され応援される学校づくりに努める
  - ・ 社会に開かれた教育課程の充実・改善と、ふるさと稲倉を愛する意識の醸成
  - ・ 地域教育資源(ひと・もの・こと)の活用と、「つながり」を活かした教育活動の充実
  - ・ 学習支援ボランティアの維持とその活動の啓発などの環境整備
  - ・ 地域住民や保護者、関係機関との連携
  - ・ 「学校運営協議会」「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」の推進
- 3 様々な体験活動を通して、心豊かな児童と自ら心身を鍛える児童の育成に努める
  - ・ 自己肯定感や自他を大切にす気持ちを育む人権教育の充実
  - ・ 様々な体験活動を通じた規範意識を高める道徳教育の充実
  - ・ 家庭と連携した基本的生活習慣の定着(さわやかスタート週間：メディアの時間を重点に)
  - ・ 心身の健康づくりに関する指導の充実(心のケア・サポート)
  - ・ 体力づくりと運動習慣の定着 縦割り班活動による異年齢集団づくりの推進
- 4 生産性を高め、教育の質の向上を図る
  - ・ 見通しをもった業務遂行の工夫（時間対効果への意識改革）
  - ・ 互いに同僚性を高め合うことができる職場環境づくり（互助精神の共有、アイデア交換、情報共有など）
  - ・ 効率的で機能的な職員室環境の整備（物品の整理整頓、文書ファイルの整理）
  - ・ 教師業務アシスタントの有効な活用